

令和7年度第1回岡崎市総合教育会議会議録

日 時 令和8年1月22日(木) 午後4時

場 所 岡崎市役所福社会館2階201号室

出席者

岡崎市	内田市長
教育委員会	安藤教育長
	上原委員
	小森委員
	田口委員
	千野委員

報 告

- (1) 32人学級の現状と今後について
- (2) 岡崎市学校教育等推進計画の改訂について

● 開会

内田市長よりはじめのあいさつ

● 報告 1 32 人学級の現状と今後について

— 資料 1 に基づき説明（宇都木教育監） —

【質疑・意見等】

・小森委員

定期的に学校訪問している。1 クラスに 2 人先生がいるのと 1 人の先生で授業をするのでは、授業中に戸惑っている児童への手の差し伸べ方が違う。児童は成長に従って自立し落ち着いていくが、低学年にはきめ細やかな教育という観点から、現状を継続していくのがよいと考える。

・上原委員

国の動向を教えてほしい。

（教育委員会事務局）

岡崎市では、国基準の「35 人学級」が小学校で完了した。令和 8 年度、国は 35 人学級を中学校へ段階的に予定だが、愛知県では 1 年前倒しで進めており、中学 2 年生で「35 人学級」を導入予定。

・田口委員

少人数学級となることで、従来の教員が講義をしていた授業から、児童が 4 人 1 組等のグループになって、みんなで考える授業に変化していると感じる。教員のフォローがより重要になっている。国が 35 人学級としている中で、市が 32 人学級としていることは誇らしい。教員の確保についての現状を教えてほしい。

（教育委員会事務局）

受験者確保においては、学生に直接声をかけることと、ホームページを充実させることが重要である。また、8 月末～9 月上旬の県の教員採用試験の合格発表後に速やかに声掛けをすることが効果的であるため、今後も実施していく。

・千野委員

任期付き教員が任期満了後に再度採用を希望する場合、面接のみで選考する枠があることは評価したい。

・上原委員

32 人学級を全学年で取り入れる予定のところ、採用の問題により低学年のみになっ

ている。「教育のまち」というのは若い子育て世代に訴求できる良いポイントであるため、採用が可能であれば高学年に拡充できるのか。

(教育委員会事務局)

高学年に拡充するのは、安定的に採用できることが条件である。長い目で見れば変わってくるかもしれないが、現段階では見通しが立っていない

・市長

グループ学習の効果があることは理解するが、1人で聞いている方がいいという児童もいるのでは。

(教育委員会事務局)

こどもの多様性に配慮し、1人で集中できる時間も確保して、ハイブリットで授業を行っている。

●報告2 岡崎市学校教育等推進計画の改訂について

— 資料2に基づき説明（浅岡教育部長） —

【質疑・意見等】

・田口委員

計画の推進にあたり、目標を達成のための進捗の確認は各学校で実施しているのか。

(教育委員会事務局)

毎年度末に外部有識者に検証してもらっている。

第5次計画の目標値は第4次計画の進捗状況を踏まえて設定をしている。

・小森委員

電子黒板やタブレットは非常によくできており、深い学びに繋がると思う。上手く使用できるよう児童を導くシステムや指導が重要であると考えているが、計画があれば教えてほしい。

(教育委員会事務局)

こどもたちのITスキル習得の時間を授業に組み込んでおり、次年度は小学校での研究成果の発表を計画している。教員に関しても、指導力の向上を図るため、岡崎市は研修を行っている。

・田口委員

校内フリースクールは岡崎市が先進的に取り組んでいるが、他県他市の状況は。

(教育委員会事務局)

長期欠席児童が増えてきた中で、民間フリースクールに通えるこどもがいた。その

発想から校内フリースクールに取り組んできた。その後、国が校内支援センターを推進するようになった。岡崎市が最先端と考えている。

・上原委員

計画を進めるために子ども・若者育成支援の推進における予算的措置が求められる。今後の対応は。

(教育委員会事務局)

子ども・若者総合相談センターで新たな業者の選定をした。予算措置はしている。特に若者の相談は増えているので、対応していく。

・小森委員

部活動の地域移行に伴い、母校愛が薄れるなど、こどもたちの心理的变化はあると考えるか。地域移行はやむを得ないものと理解しているが、上級生から下級生に受け継がれていく母校愛を引き継いでいく取組があるといい。

(教育委員会事務局)

これまでは、学校単位で部活を行っていたため母校愛が育まれた。部活動の存続が難しくなることを見据えて地域移行を行ってきたため、母校愛は薄くなったかもしれないが、ブロック移行をするので、地域への愛着が継承されるように取り組んでいく。

・市長

今のこどもはデジタル化が進んでいるから問題ないのかもしれないが、アナログの部分が排除されて問題ないのか。

(教育委員会事務局)

紙の教科書が無くなることはない。デジタルと紙の中間の教科書を国が目指しており、そこに集約していくことが考えられる。

●その他の意見交換

・千野委員

今後こどもが減っていく。こどもが減っていくと予算縮小も考えられるが、少子化だからこそこどもが重要という考え方もできる。こどもが減ったから予算を減らすのではなく、岡崎市独自の取組を継続して行ってほしい。

・上原委員

人口が減ったから予算を減らすのではなく、若い子育て世代の方に魅力を感じてもらえるよう、教育に投資をしてほしい。

・市長

住んで快適、楽しいまちにしないと、若い人が住み続けてくれない。自分が生まれ育

ったふるさとに対する愛情と誇りが持てるようにしていきたい。

・小森委員

給食をもう一品増やしてほしい。実食してみると、量に不足を感じる。午後の授業と部活動があることを考えるとエネルギー不足ではないかと思ってしまう。

(教育委員会事務局)

給食では決められたカロリー、栄養素を提供している。子どもたちが好きなメニューも入れていきたいがコストもある。量に関しては残食もあり、バランスに苦慮している。

・市長

給食費については国からの支援もあるため、良い方向に変えて行きたいと考えている。

・田口委員

未来の岡崎を作っていくのが、子どもたち。子どもたちを作るのは、教育環境。大人が残せるものは、学問、人間形成。独自の取組も重要。楽しい岡崎市民に育ててほしい。

(教育委員会事務局)

財政厳しいが、個人的にこどもは岡崎の未来の投資と考える。一方で、事業は教育だけでもない。社会環境全てが教育に繋がるので、トータルで考えていきたい。

● 閉会